



**2025年3月期 第2四半期
決算説明会レポート（書き起こし）**



2025年3月期 第2四半期 決算説明会レポート

- 1 | 2025年3月期 第2四半期 決算概要
- 2 | 2025年3月期 第2四半期 セグメント別業績
- 3 | 2025年3月期 業績予想
- 4 | サステナビリティの取り組み
- 5 | APPENDIX（参考情報）

Summary

2025年3月期 第2四半期業績概要

上期は売上高・営業利益ともに予想を超過し着地

売上高 303億円（前期比+3.5%） 四半期売上高の過去最高を更新
営業利益 32億円（前期比+3.5%） 第2会計期間は前年同期比二桁増

- ・ 半導体関連事業は一部案件の期ずれにより売上・利益ともに前年同期比減となったものの高水準の実績を維持、当社グループ製品への需要は堅調
- ・ 医療・健康機器事業は海外での売上が増加。一方、販管費の増加により営業利益は減少
- ・ 計測・計量機器事業は大型案件の反動で国内は前年同期比で減少したものの、海外はアジア・オセアニアにおける需要増や米州での一部需要の持ち直しもあり売上・利益ともに増加

2025年3月期 通期業績予想

業績は下期偏重のため、上期はほぼ計画通りに進捗

通期では売上高 660億円（前期比+6.5%） 営業利益 92億円（前期比+15.6%）を見込む

- ・ 半導体における米中貿易摩擦等の地政学的リスクや為替リスクの影響は継続的に注視、当初予想からは変更なし

サステナビリティの取り組み

「はかる」技術により環境保全への取り組みを強化

- ・ 「A & Dホロンエコプロダクツ認定制度」を導入、2024年度は10製品を認定
- ・ 環境配慮型製品の開発・販売を促進し、環境負荷低減や地球環境の保全へと積極的に取り組んでいく





2025年3月期 第2四半期 決算説明資料

A & D ホロンホールディングス 証券コード 7745

<ご注意>

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その正確性を保証するものではありません。

株式会社 A & D ホロンホールディングス
代表取締役 森島 泰信 でございます。

本日は大変お忙しい中、当社決算説明会にご参加いただきまして
誠にありがとうございます。

それでは2025年3月期第2四半期決算についてご説明致します。

2025年3月期2Q

上期は売上高、営業利益ともに
当初予想を上回る着地

売上高 30,375百万円 2Q予想達成率 102.3%
営業利益 3,273百万円 2Q予想達成率 105.6%

- 半導体関連事業は、一部期ずれが生じたが、半導体市場の回復基調が続くなか、当社グループ製品への需要は堅調
- 医療・健康機器事業は、顧客・地域ごとの需要の強弱や為替の影響などにより前年同期比増収減益
- 計測・計量機器事業は、米州での一部需要の持ち直しの動きやアジア地域での堅調な需要継続により売上、利益ともに増加

2025年3月期予想

中期経営計画最終年度の目標に向け、
通期の増収増益を目指す

売上高 66,000百万円 前年同期比 +6.5%
営業利益 9,200百万円 前年同期比 +15.6%

- 半導体関連事業は24年3月期並みの実績を見込む。次世代機への開発に注力
- 医療・健康機器事業は地域ごとの販売戦略および新たな事業展開の推進と原価低減の取り組み強化を図る
- 計測・計量機器事業は、米州の事業再構築、アジア地域の需要を捉え業績の拡大を目指す

Contents

1 2025年3月期第2四半期 決算概要	P 3
2 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績	P 8
3 2025年3月期 業績予想	P 12
4 サステナビリティの取り組み	P 17
5 APPENDIX(参考情報)	P 21

本日はご覧の項目について、ご説明致します。

2025年3月期第2四半期 業績の概況

前年同期比売上高 +3.5%、営業利益 +3.5%

計測・計量機器事業の実績増を背景に売上、営業利益ともに増加、2Q予想も超過して着地

(単位:百万円)	2024/3期2Q		2025/3期2Q		増減額	前年同期比	(ご参考)	
	売上高	率	売上高	率			2Q予想	達成率
売上高	29,335	—	30,375	—	1,039	+3.5%	29,700	102.3%
売上原価	16,503	56.3%	16,610	54.7%	107	+0.7%	—	—
売上総利益	12,832	43.7%	13,764	45.3%	931	+7.3%	—	—
販売費及び一般管理費	9,669	33.0%	10,491	34.5%	821	+8.5%	—	—
営業利益	3,163	10.8%	3,273	10.8%	110	+3.5%	3,100	105.6%
経常利益※	3,411	11.6%	3,184	10.5%	-227	-6.7%	3,000	106.1%
税引き前利益	3,404	11.6%	3,179	10.5%	-225	-6.6%	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,150	7.3%	1,769	5.8%	-380	-17.7%	2,100	84.3%
1株当たり四半期純利益(円)	78.30	—	64.38	—	-13.92	—	76.41	—

※経常利益の前年同期比減の主な理由：24/3期2Qは為替差益で293百万円発生、25/3期2Qは為替差損で173百万円発生のため



売上高、営業利益ともに前年同期比3.5%増加での着地となりました。第2四半期予想に対する達成率は売上高が2.3%、営業利益は5.6%の超過です。

詳細についてですが、売上高は303億7,500万円と前年同期比10億3,900万円の増加でした。売上原価は前年同期比1億700万円の増加ですが、売上高の増加率よりもかなり低く抑えることができ利益率も改善、売上総利益は137億6,400万円と前年同期比9億3,100万円の増加となりました。

販管費は104億9,100万円と前年同期比8億2,100万円と大きく増加しております。その要因は、試験研究費が前期と比べて増加したことと、インフレの中、海外の人件費等を含めた諸経費も増加したことが挙げられます。

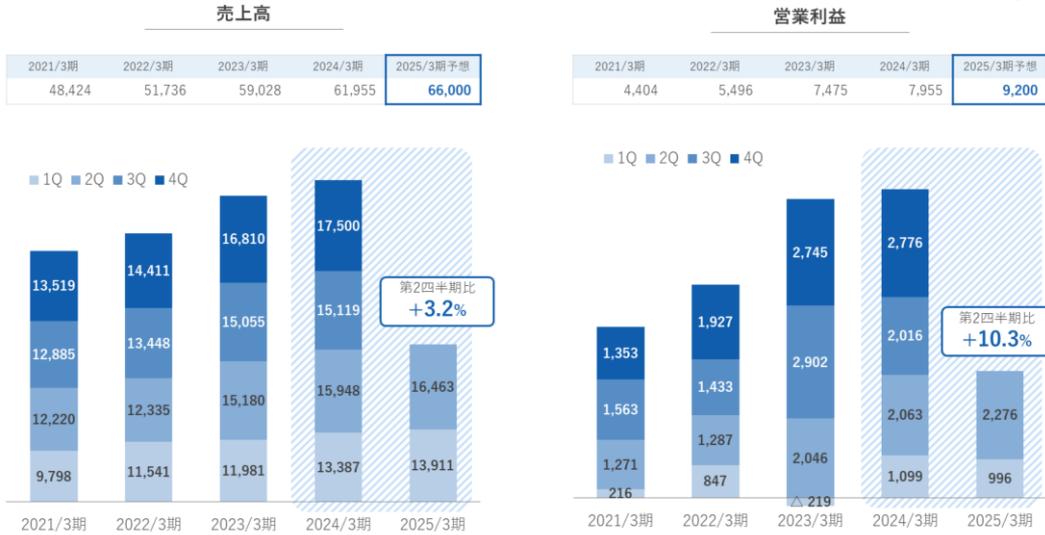
結果、営業利益は32億7,300万円と前年同期比1億1,000万円の増加となりました。

経常利益は為替差損が発生したことにより減少、税引き前利益、親会社株主に帰属する四半期純利益も前年同期比でマイナスを強いられ、1株当たり四半期純利益は64.38円となりました。

四半期別売上高・営業利益の推移

第2四半期会計期間 売上高は前年同期比+3.2%、営業利益は前年同期比+10.3%で共に過去最高を更新

(単位：百万円)



第2四半期会計期間の売上高および営業利益について過去4期の推移を含めご説明致します。

第2四半期での売上高は前年同期比3.2%増加の164億6,300万円となりました。

営業利益は前年同期比10.3%増加の22億7,600万円で、いずれも第2四半期比において過去最高を更新しております。

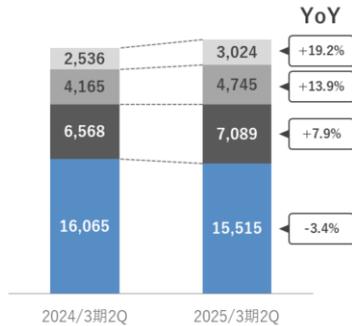
地域別売上高推移

国内は設備投資需要が上向き傾向となるものの、一部案件の期ずれや前年度大型案件の反動減が影響
海外は米州、アジア・オセアニアにおける計測・計量機器、欧州における医療・健康機器が牽引

地域別売上高

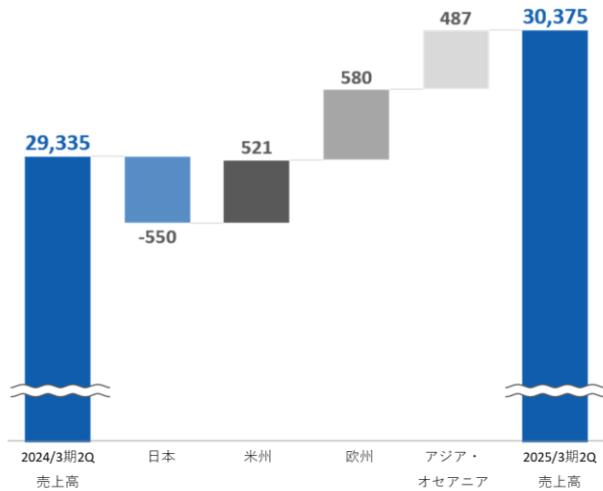
	2024/3期2Q		2025/3期2Q		前年同期比
	額	構成比	額	構成比	
日本	16,065	54.8%	15,515	51.1%	-3.4%
海外	13,270	45.2%	14,859	48.9%	+12.0%

■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア・オセアニア



地域別売上高増減分析

(単位：百万円)



AND HOLON

6

地域別売上高の推移についてご説明致します。

国内の売上高は前年同期比3.4%減少の155億1,500万円でした。主な原因として、国内の売上に計上している半導体関連の期ずれの発生、および計測・計量機器における前期の大型案件による反動減が挙げられます。

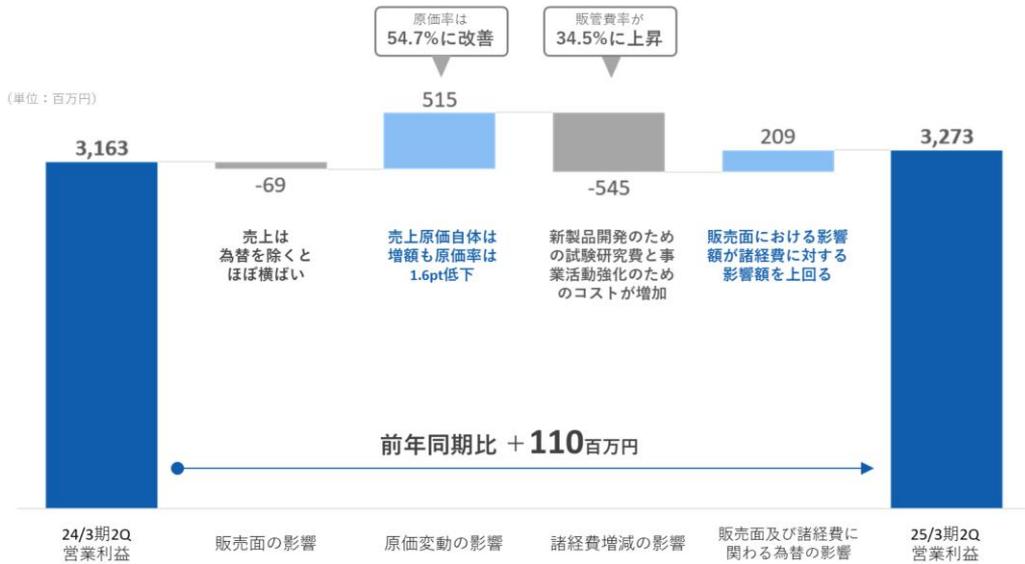
海外の売上高は前年同期比12.0%増加の148億5,900万円でした。

米州では計測・計量機器が特需のあった前々年度レベルまで持ち直しました。

欧州では医療・健康機器が堅調に推移、加えて一部先行需要の取込みもあり大きく貢献しました。

また、アジア・オセアニアの増加は、韓国やインドなどで計測・計量機器の売上が伸びた結果となっております。

営業利益増減要因



営業利益の増減要因についてご説明致します。

販売面の影響としては、売上は為替を除きほぼ横ばいでしたが、原価面ではコスト改善等の成果もあり、原価率が1.6ポイント減少して54.7%に改善しました。

販管費は試験研究費や事業活動強化に必要なコストが増加した影響で、5億4,500万円のマイナス要因となりました。

また、為替が昨年と比較して円安に振れましたので、為替による営業利益の影響額が2億900万円となり、結果、営業利益は前年同期比1億1,000万円増加の32億7,300万円での着地となりました。

Contents

1 2025年3月期第2四半期 決算概要	P 3
2 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績	P 8
3 2025年3月期 業績予想	P 12
4 サステナビリティの取り組み	P 17
5 APPENDIX(参考情報)	P 21

セグメント別業績についてご説明致します。

セグメント別業績 半導体関連事業

一部案件の下半期への期ずれにより売上、利益ともに減少するも高水準を維持、半導体市場の回復基調が続くなかで当社グループ製品への需要は堅調

- ・ 利益面では新製品開発に伴う研究開発費増などが影響
- ・ ホロン新工場建設に着工、需要増に対応できる安定的な生産や新製品開発を促進する体制の確立を図る

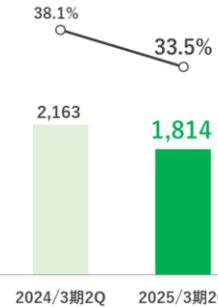
売上高・営業利益

	2024/3期2Q	2025/3期2Q	前年同期比	ご参考	
				通期予想	進捗率
売上高	5,674	5,414	-4.6%	10,500	51.6%
営業利益※	2,163	1,814	-16.1%	-	-
受注残高	11,029	10,140	-8.1%	-	-

売上高



営業利益・率 (単位:百万円)



※：半導体関連事業は国内のみ

※：各事業別の営業利益には、全社費用およびセグメント間の取引調整額（24/3期2Q -1,566百万円、25/3期2Q -1,218百万円）が含まれておりません。



半導体関連事業の業績についてご説明致します。

売上高は、一部案件の期ずれが生じた影響で54億1,400万円と前年同期比4.6%のマイナスです。営業利益も研究開発コストの増加などにより、18億1,400万円と大きく減少しております。

受注残高は101億4,000万円と前年同期比8.1%のマイナスですが、マスクライター向けユニット品において前期にまとまった受注をいただいていた関係で、今期はそれを消化している状況のため、受注自体は前期より減少しています。CD-SEM等の完成品の受注については堅調を維持しており前期よりも増加している状況です。

今後の半導体関連事業につきましては、長期的に投資を進めており、ホロンでは新工場建設に着手しております。安定的な生産量の確保と新製品開発を促進すべく、体制整備を図っている最中でございます。

セグメント別業績 医療・健康機器事業

欧州での一部先行需要の取り込みにより、健康機器の売上が増加
 欧米における営業活動強化に伴うコスト増と為替の影響などにより利益は微減

- 日本** 大口顧客向けが低調で売上は前年割れ、製品ミックスや生産性向上により利益は増加
- 米州** 現地での需要は低調が続くものの為替影響により売上増加、利益は事業活動強化に伴う人件費増などにより減少
- 欧州** 現地でのシェア維持に注力し売上増加、利益は営業活動強化に伴うコスト増や為替の影響により減少

売上高・営業利益

	2024/3期2Q ()は構成比		2025/3期2Q ()は構成比		前年同期比	ご参考	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益		過期予想	進捗率
売上高合計	11,173		11,693		+4.7%	23,900	48.9%
医療機器	2,173 (19.5%)		2,137 (18.3%)		-1.7%	4,600	46.5%
健康機器	8,999 (80.5%)		9,556 (81.7%)		+6.2%	19,300	49.5%
営業利益※	2,203		2,134		-3.2%	-	-
受注残高	624		394		-36.8%	-	-

地域別売上高 (単位:百万円)



※: 各事業別の営業利益には、全社費用およびセグメント間の取引調整額 (24/3期2Q -1,566百万円、25/3期2Q -1,218百万円) が含まれておりません。

医療・健康機器事業の業績についてご説明致します。

売上高は116億9,300万円と前年同期比4.7%の増加です。内訳は、医療機器がマイナス1.7%と、特に国内の医科向け計量機器の受注に対して部材の入手が遅れた影響を受けております。一方、健康機器は前年同期比6.2%の増加です。

営業利益は21億3,400万円と前年同期比3.2%のマイナスとなりました。国内の利益はプロダクトミックスなどにより増加しましたが、医療・健康機器は海外売上比率が高く販管費等も増加した影響により、全体での営業利益は前年同期と比べてマイナスになっております。

売上高を地域別に見ると、日本は大口顧客向けが減少したため5.4%のマイナスでしたが、海外では堅調に伸ばしました。特に欧州での売上が伸びており前年同期比13.5%の増加という状況です。

セグメント別業績 計測・計量機器事業

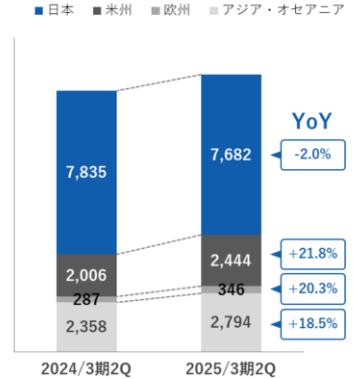
米州での一部需要の持ち直しの動きやアジア地域での堅調な需要継続により売上、利益ともに増加

- 日本** 前年度大型案件の反動で売上減となったものの、製品ミックスや生産性向上により利益は増加
- 米州** 一部需要の持ち直しの動きを捉え売上増加、人件費増や為替の影響は続くものの、売上増加により赤字幅縮小
- アジア・オセアニア** 韓国やインドなどでの計量機器需要が好調に推移し、売上、利益ともに増加

売上高・営業利益

	2024/3期2Q ()は構成比		2025/3期2Q ()は構成比		前年同期比	ご参考	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益		通期予想	進捗率
売上高合計	12,488		13,267		+6.2%	31,600	42.0%
計量機器	9,276 (74.3%)		9,764 (73.6%)		+5.3%	21,600	45.2%
DSP機器※	3,211 (25.7%)		3,502 (26.4%)		+9.0%	10,000	35.0%
営業利益※	361		543		+50.1%	-	-
受注残高	7,924		7,801		-1.6%	-	-

地域別売上高 (単位：百万円)



※：25/3期実績から計測機器とDSP機器をあわせDSP機器としてまとめて表示（24/3期についても計測機器とDSP機器を合わせた実績で表示）
 ※：各事業別の営業利益には、全社費用およびセグメント間の取引調整額（24/3期2Q-1,566百万円、25/3期2Q-1,218百万円）が含まれておりません。

計測・計量機器事業の業績についてご説明致します。

売上高は132億6,700万円と前年同期比6.2%の増加です。内訳は、計量機器が5.3%、DSP機器が9.0%のプラスとなり、営業利益も前年同期比50.1%の増加となりました。

地域別に見ると、国内では前年度第2四半期に大型案件の実績があった影響で、今期売上はその反動減により2.0%のマイナスとなりました。米州では、事業の建て直しを進めているなかで、計量機器や自動車関連のDSP機器の実績が貢献し、前年同期比21.8%の売上増となりました。また、アジア・オセアニア地域においても、韓国やインドなどでの計量機器の需要増によって、売上、利益ともに増加しました。

Contents

1 2025年3月期第2四半期 決算概要	P 3
2 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績	P 8
3 2025年3月期 業績予想	P 12
4 サステナビリティの取り組み	P 17
5 APPENDIX(参考情報)	P 21

2025年3月期の業績予想についてご説明致します。

売上高 前年同期比+6.5%、営業利益 前年同期比+15.6%と増収、営業利益二桁増益を見込む
 中期経営計画最終年度（25/3期）は、23年5月12日に発表した上方修正通りを見込む

事業環境

半導体関連事業

引き続き中長期的には新たな需要は高まる見込み、米国による中国向け輸出規制強化などの環境変化には注視が必要
 当社製品への需要は前期並みを想定

医療・健康機器事業

医療・健康分野でのデジタル化進展やインフラ整備、個人での健康管理などの需要増継続が見込まれる一方、地政学リスクや為替の影響など、引き続き厳しい事業環境を想定

計測・計量機器事業

引き続き世界的なカーボンニュートラル社会やデジタル化社会へのシフトが加速する中、新規技術や生産設備への投資は続く

	2024/3期	2025/3期 予想	増減率
(単位：百万円)			
売上高	61,955	66,000	+6.5%
営業利益	7,955	9,200	+15.6%
経常利益	8,240	8,980	+9.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,299	6,200	+17.0%
1株当たり 当期純利益 (円)	192.91	225.59	+32.68

想定為替レート：1米ドル140.00円、1露ルーブル1.60円

通期の業績予想は、売上高660億円、営業利益92億円、経常利益89億8,000万円、1株当たりの当期純利益は225.59円となります。

当社の過去5～6年の推移を見ると、上期と下期の売上高比率は大体45：55程度です。多少前後はするものの、下期偏重の傾向は変わっておりません。自動車関連を含む計測・計量機器は各企業の年度予算の執行が期末に集中する傾向がありますし、医療機器関係も同様です。また家庭向け健康機器もクリスマス商戦などから下期に需要が増加するため売上が下期に集中する要因となっています。

半導体関連事業の需要は昨年より継続しております。今期は受注残を含め予測できる材料は確保しているため、売上高の予想に変更はありません。ただし、米中問題の動向には引き続き注視が必要です。

医療・健康機器事業は海外での売上が多いので、地政学リスクや為替リスクへのチェックは継続してまいります。

計測・計量機器事業においては、社会変化の大きな潮流としてカーボンニュートラルへの動きが挙げられます。しかしながら、一部ではEV化見直しの動きもあり、今後、事業環境がどう変化していくのか、我々の事業内容とその変化に対応させていく上でも、きめ細かくチェックしていく必要があると考えております。下期含め、通期では計画している数字をきちんと達成していく考えです。

2025年3月期は半導体関連事業については大幅な業績貢献を見込んでおらず、計測・計量機器事業において、主に米国やアジア地域での需要増による業績貢献を見込む

(単位：百万円)	2024/3期 (実績)	2025/3期 (予想)	増減率	
半導体関連事業	10,329	10,500	+1.6%	
医療・健康機器事業	医療機器	4,503	4,600	+2.2%
	健康機器	19,060	19,300	+1.3%
小計	23,563	23,900	+1.4%	
計測・計量機器事業	計量機器	18,909	21,600	+14.2%
	DSP機器	9,153	10,000	+9.2%
小計	28,062	31,600	+12.6%	
売上高合計	61,955	66,000	+6.5%	

半導体関連事業

受注残や引合いの状況を鑑み、24年3月期並みの実績を見込む。次世代装置等の新製品開発推進や既存顧客とのリレーション強化によって今後の需要増に対応しさらなる成長への準備を着実に実行

医療・健康機器事業

各国での販売エリアや流通の拡大、新たな事業展開の推進などに加え、部材調達の変化する見直しおよび生産性向上の取り組み推進により原価低減を図り、業績の維持・拡大を目指す

計測・計量機器事業

米州での流通ルート見直しや販売チャネル強化など販売戦略見直しによる事業再構築および中国などのアジア地域における事業拡大に加え、電動化への対応強化により業績の拡大を目指す

※計測・計量機器事業の内訳を変更、25年3月期予想からは計測機器とDSP機器をあわせDSP機器としてまとめた

各事業別の業績予想についてご説明致します。

半導体関連事業は105億円と成長を大きく見込んでいたわけでは不是ですが、需要が堅調なため、顧客要求通りに対応できれば十分に達成可能な状況と考えております。また、長期的な事業展開として、新しいニーズへの対応や製品ラインナップを増やすために複数の新製品開発を進めており、積極的に投資して今後の需要に応えてまいります。

医療・健康機器事業についてですが、下期には、新製品としてセルラー式血圧計の販売を開始します。これは血圧計にセルラーモジュールを組み込むことで血圧計から直接データの通信を可能にしたもので、まずは米国での販売を始めます。このセルラー式血圧計の他にも、大口顧客との契約や当社ブランドでの販売契約など、下期の業績に繋がる材料はすでに出てきておりますので、通期での達成を見込んでおります。

しかし、将来的には、中国企業の低価格血圧計の存在が欧米市場における脅威になることが懸念されます。そのため、今後は低価格製品への対応と、セルラー式血圧計をはじめとした高付加価値製品の強化の両方を行っていかなくてはならないと考えております。

計測・計量機器事業については、売上の大幅な増加を見込んでおります。米国での販売体制の強化や、中国における直販体制への切り替えなどが寄与する見込みです。また、メキシコなど中南米を含めた販売エリアの拡大により、売上増加を狙っていきます。自動車関連のDSP機器については、市場環境の変化に柔軟に対応できる体制を整え、状況を注視しながら事業を推進してまいります。

株主還元

2024年3月期の業績結果を踏まえ、2025年3月期の年間配当予想は2024年3月期から5円増配し40円（中間配当20円、期末配当20円）を予定



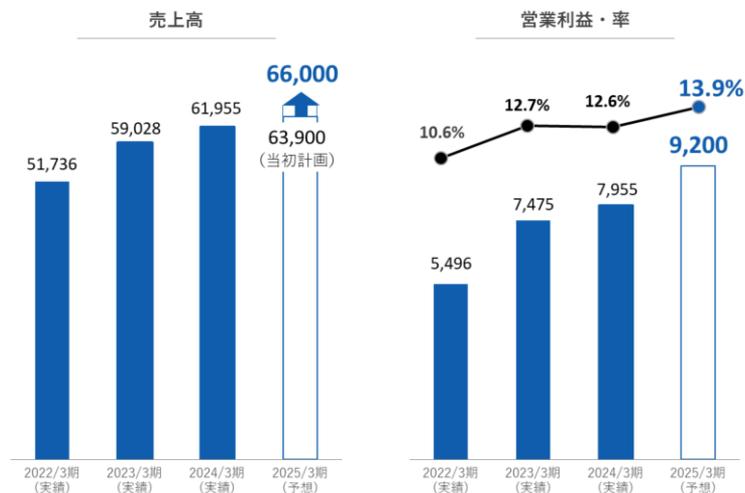
株主還元についてご説明致します。

年間配当予想は40円と当初の予定通りで変更はありません。
将来的には開発投資中の事業成果も踏まえ、それに見合った株主還元を実行しなければならぬと考えております。

中期経営計画数値目標

最終年度である25年3月期は、23年5月12日公表の上方修正通りを見込む

(単位：百万円)



2025年3月期

売上高
2022/3期比
+27.6%

営業利益
2022/3期比
+67.4%

今期は中期経営計画の最終年度です。

2022年3月期と比較して売上高は27.6%、営業利益は67.4%の増加を見込んでおります。

新たな中期経営計画は現在作成中であり、来期発表の予定ですが、継続的に成長できる事業内容や経営方針を盛り込みたいと考えております。

Contents

1 2025年3月期第2四半期 決算概要	P 3
2 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績	P 8
3 2025年3月期 業績予想	P 12
4 サステナビリティの取り組み	P 17
5 APPENDIX(参考情報)	P 21

サステナビリティの取り組みについてご説明致します。

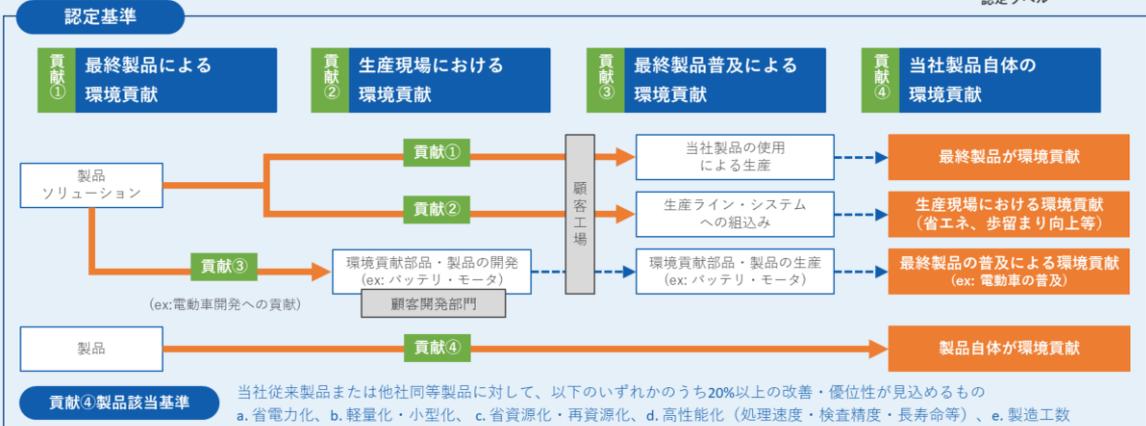
A & Dホロンエコプロダクツ認定制度

当社は2024年11月より環境配慮性に優れた製品を自社認定する「A & Dホロンエコプロダクツ認定制度」を導入しました。グループ全製品を対象とし、環境貢献の考え方にに基づく認定基準を満たした製品を「エコプロダクツ」として認定します。2024年度は10製品を認定しました。

環境配慮型製品の開発および販売を推進することで、環境負荷低減や地球環境の保全に取り組んでいきます。



認定ラベル



A & Dホロンエコプロダクツ認定制度についてご説明致します。

当社は2024年11月から環境配慮性に優れた製品を自社認定する「A & Dホロンエコプロダクツ認定制度」を開始しております。資料の右上にある認定ラベルも用意しました。環境貢献の考え方に基づいて認定した製品にはラベルをつけて、積極的に普及してまいります。

資料中央に認定基準として貢献①～貢献④の説明を記載しております。

貢献①～③は、当社の製品を使っていた結果、製造現場での省エネや歩留まり向上、生み出された最終製品が省エネやCO2削減に繋がるなど、間接的に環境貢献できる製品を認定する基準です。

貢献④は、当社製品自体でCO2削減などに貢献する場合の基準です。資料最下部の通り、従来製品よりも省電力化、軽量化・小型化、省資源化、高性能化などで改善・優位性が見込める製品が該当します。このような認定制度を通じて環境負荷に配慮した製品の普及を図る考えでございます。



認定製品【計測・計量機器事業】

貢献① 貢献④
生産ライン組込み用高精度計量センサー
AD-4212Cシリーズ



従来製品より27%小型化、消費電力を68%削減、応答速度を1.8倍に向上。電動車用二次電池の製造ラインで電解液の充填量の確認に使われており、精密かつ安全な二次電池製造に貢献

貢献④
分析・汎用電子天びん
GX-A/GF-Aシリーズ



従来製品より消費電力を34%削減、新開発のセンサ方式により高速応答、高分解能を実現。また、新機能（衝撃検出、流量測定、自己点検）搭載により幅広いニーズに対応

貢献② 貢献④
ウェイトチェッカ/金属検出機/X線検査機
AD-4961A/AD-4976/AD-4991シリーズ



ウェイトチェッカは従来製品より計量精度が60%以上向上し、生産現場での歩留まり改善や省エネに貢献。金属検出機、X線検査機は混入異物製品を検査・選別することにより、市場流通品の回収・廃棄によるフードロスの削減に貢献

貢献③
バッテリーHILS
(バッテリー開発向けシミュレータ)



当製品を使用したMBD※により、電動車の重要コンポーネントであるバッテリーの劣化状態再現や長い充電時間、安全性など、実バッテリーでの課題を解消し制御開発の効率化に貢献

※MBD：モデルベース開発 (Model Based Development)

認定基準 貢献① 最終製品による環境貢献 貢献② 生産現場における環境貢献 貢献③ 最終製品普及による環境貢献 貢献④ 当社製品自体の環境貢献



認定製品の一部をご紹介します。

資料左上の「生産ライン組込み用高精度軽量センサー」は貢献①と貢献④に該当する製品です。従来製品より27%小型化し、消費電力は68%削減、応答速度は1.8倍に向上しました。この製品は、EV車用の二次電池製造ラインで使われております。

具体的には、二次電池を一度に何十個と作る際、電解液の充填量を一つ一つ微細に管理するための確認用の計量機器として使われています。これを使った二次電池がより普及すれば、自動車産業を通じたCO2削減にも貢献する上、製品自体の環境負荷低減に対する貢献度合いも大きくなっています。

現在、EV車用の二次電池を取り巻く環境として、日本も製造ラインを増やす計画をしておりますし、欧米においても製造ラインの増加がまだまだ期待できます。そこで当社製品をさらに使っていただくために、環境配慮型製品として自社認定し、普及を促進していく考えです。

自動車関連だけでなく他の製品においても、当社の「はかる」技術を通じてサステナブルな社会の実現に貢献できる製品が多々あります。その中でも特に貢献度合いの高い製品を上記資料で紹介しております。

サステナビリティの取り組み

認定製品【医療・健康機器事業】

貢献④

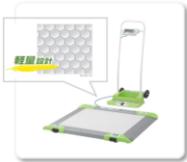
上腕式ホースレス血圧計 UA-1100NFC



血圧計本体とカフをつなぐホースを失くすことでゴム材を削減、コンパクト設計によりマスターカートンの体積も1/3に削減し環境負荷低減に貢献

貢献④

車いす用バリアフリースケール AD-6106Rシリーズ



計量台をハニカム（ハチの巣）構造にすることで、従来製品より同強度で約30%の軽量化を実現し環境負荷低減に貢献

認定製品【半導体関連事業】

貢献②

貢献④

半導体製造装置用電源 AD97XXシリーズ



従来製品より60%小型化、約50%軽量化しつつ、性能向上により描画装置の高安定度化を実現。顧客の生産性向上と環境負荷低減に貢献

貢献①

貢献②

貢献④

フォトマスク用 寸法測定・欠陥レビュー装置 ZX/LEXa-20



従来製品より省電力化、高性能化を実現し生産性が1.5倍に向上。半導体製造に必要なフォトマスクの寸法測定・欠陥レビューを行うことで半導体チップの低消費電力化や歩留まり向上に貢献

認定基準

貢献①

最終製品による環境貢献

貢献②

生産現場における環境貢献

貢献③

最終製品普及による環境貢献

貢献④

当社製品自体の環境貢献

AD HOLON

20

もう1つご紹介致します。

資料の左上は「上腕式ホースレス血圧計」という製品で、貢献④に該当します。従来の血圧計では、血圧計本体と腕に巻くカフをつなぐホースがありますが、当社の「上腕式ホースレス血圧計」ではこのホースを無くし、カフ自体に血圧計本体を備え付けているため、従来製品よりも小型化を実現しております。また、ホースがないためゴム材の削減にもなり、製品自体が環境負荷の低減に寄与しております。

グローバルに見ますと、リモートで診療する環境が徐々に整備されてきています。

この製品は通信機能付きの血圧計で、新たな社会変化としてリモート診療にも対応しているという意味でも、サステナブルな製品といえます。

それ以外にも半導体関連の製品などありますが、資料をご覧いただき、ご理解を深めていただければ幸いです。

以上をもちまして、2025年3月期第2四半期決算説明を終わります。

Contents

1 2025年3月期第2四半期 決算概要	P 3
2 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績	P 8
3 2025年3月期 業績予想	P 12
4 サステナビリティの取り組み	P 17
5 APPENDIX(参考情報)	P 21

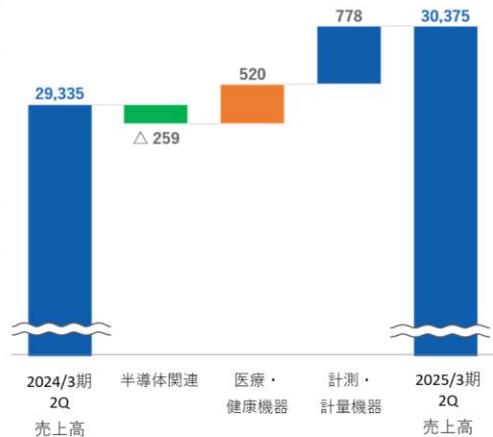
事業別業績

半導体関連事業は一部案件の期ずれで減収減益、医療・健康機器事業は前年同期比増収、計測・計量機器事業は需要増の傾向を受け増収増益

	24/3期2Q	25/3期2Q	前年同期比	通期予想	進捗率
売上高	29,335	30,375	+3.5%	66,000	46.0%
半導体関連	5,674	5,414	-4.6%	10,500	51.6%
医療・健康機器	11,173	11,693	+4.7%	23,900	48.9%
計測・計量機器	12,488	13,267	+6.2%	31,600	42.0%
営業利益	3,163	3,273	+3.5%	9,200	35.6%
半導体関連	2,163	1,814	-16.1%	-	-
医療・健康機器	2,203	2,134	-3.2%	-	-
計測・計量機器	361	543	+50.1%	-	-
全社消去	-1,566	-1,218	-	-	-

事業別売上高増減分析

(単位：百万円)



事業別売上高構成



フォトマスク用CD-SEM



全自動血圧計



家庭用血圧計



分析用電子天秤



車載統合計測システム (VMS)

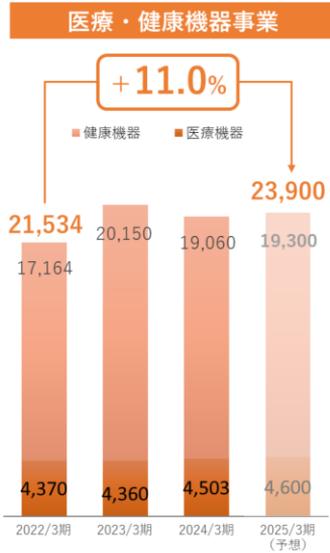
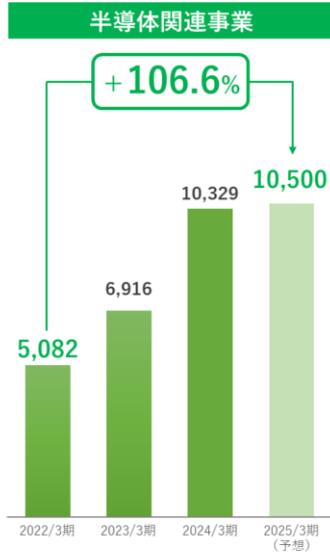


引張・圧縮試験機

中期経営計画数値目標 セグメント別売上高

※計測・計量機器事業の内訳を変更、25年3月期予想からは計測機器とDSP機器をあわせDSP機器としてまとめた

(単位：百万円)



貸借対照表

(単位：百万円)	2024年3月期末	2025年3月期2Q	増減額
流動資産合計	54,368	49,496	-4,871
固定資産合計	17,618	17,159	-459
資産合計	71,986	66,655	-5,330
流動負債合計	29,896	24,876	-5,020
固定負債合計	4,327	3,707	-620
負債合計	34,223	28,583	-5,640
株主資本合計	38,017	39,273	1,256
純資産合計	37,762	38,072	309
負債純資産合計	71,986	66,655	-5,330
自己資本比率	52.3%	57.0%	+4.7%

- 利益剰余金を中心とした株主資本の増加を有利子負債の返済に充当し、資産・負債を圧縮

- 前期末が非営業日だったことによる、手形等の売上債権・債務の両膨らみが解消

- 法人税や消費税等の納付により流動負債が減少

わたしたちは、長年培ってきた「はかる」技術を社会に提供することを通じて、科学技術の発展、産業の高度化、人々の健康な生活に寄与し、豊かで持続的な社会づくりにグローバルに貢献する企業グループを目指します。



「はかる」をコアとした技術革新



A&Dホロンホールディングス
IRサイトは[こちら](#)から